

貞光歯科医院 院長
貞光 謙一郎 先生

BeautiBond Xtreme

レジセム EXを活用した ビューティボンド Xtremeの 臨床的活用

臨床現場の声を
お届けします。



レジン充填処置に用いるボンディングシステムとして2008年に発売されたビューティボンドは12年あまりの改良期間を経てリニューアルされ、直接修復／間接修復／知覚過敏抑制／シーリングコーティング用途等に使用できる多目的接着材料として生まれ変わった。本材はレジン充填処置に用いるだけでなく、レジンセメント、レジンコア材料と適宜組み合わせ使用できるユニークな特徴を有している。本クリニックレポートではビューティボンド Xtremeと同時に発売されたバイオアクティブな機能が期待されるS-PRGフィラー含有のレジンセメント“レジセム EX”を用いて、間接修復の症例を紹介しつつ、ビューティボンド Xtremeの臨床的活用について記述する。

臨床
ケース

1



支台歯形成後



ビューティボンド Xtremeを用いて
支台歯の接着処理を行った。



バイトチェックを行ない、最終の咬
合調整を行った。



ビューティボンド Xtremeを用いて
補綴装置内面を処理した。



均一な練和物を得るためレジセム
EXオートミキシングを用い補綴装
置内面にペーストを塗布した。

圧接、余剰
ペースト除去
最終硬化

臨床
ケース

2



ビューティボンド Xtremeを支台歯
に塗布。酸性モノマーとシランカッ
プリング剤が配合されていること
から、天然歯とレジンコア材の同時
処理が可能。



ビューティボン
ド Xtreme塗
布後の補綴装
置へレジセム
EXを塗布し、
圧接操作を行
なった。



最終の咬合調整を行った後、セメ
ントラインを研磨。

圧接、余剰
ペースト除去
最終硬化

余剰セメントは垂れ落ちることな
く、一括除去に適する性状であった。



支台歯形成後



ビューティボンド Xtremeを用いて支台歯の接着処理を行なった。天然歯とレジコンコア材の同時処理が可能。



補綴装置の浮き上がり感がないことから、指で圧接しながら装着を行なった。



圧接、余剰ペースト除去最終硬化



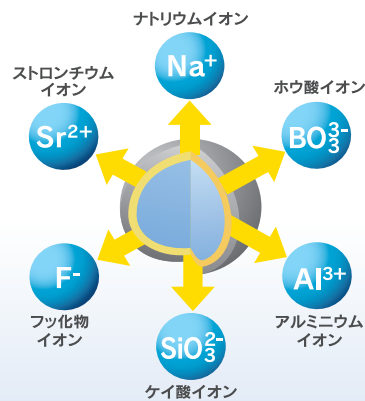
バイトチェックを行い、最終の咬合調整を行なった。

所感

1ボトル1ステップのビューティボンド Xtremeは臨床実感として、塗布しやすくエアブローで吹き溜まりが出来ず使用しやすくなっている。このため、非常に短時間に接着処理ができ、かつ、臨床において活用できる用途が広い利点を感じることができた。

一方、レジセムは余剰セメントの除去が困難であるというイメージがあったが、今回のレジセム EXは①余剰セメントを除去するまでの余裕時間が長く、②ペーストの粘り気が少なく、③エアブローによりある程度、ペーストの動きがコントロールできるなど、性状面での改良が認められた。

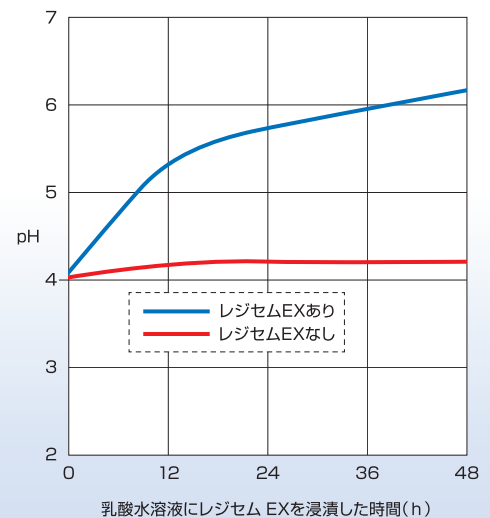
当院では“ロンジェビティ”（口腔内環境および修復部位の長期的な安定）を目的に、レジコン充填処理においてバイオアクティブな効果が期待されるビューティフィルシリーズやフルオロボンドⅡを臨床に用いてきた。これらの製品はイオン徐放能力を有するS-PRGフィラーが配合されているため、臨床経過は良好に推移しイオン徐放によってう蝕予防効果が発現できていると感じている。今回、症例に使用したレジセム EXもイオン徐放性を示し、右図のような周りの環境が酸性になった場合に、それを中性にもどす酸中和能を発現する。天然歯（支台歯）および審美補綴装置が長期的に健全な状態を保持でき、ロンジェビティを獲得するためには、バイオアクティブな機能があるセメント材料を選択することを推奨したい。



レジセム EXからのイオン徐放(ppm/7days)

Al	B	Na	Si	Sr	F-
0.09	1.65	0.74	0.93	3.58	1.08

乳酸水溶液にレジセム EX硬化物を浸漬した際の酸中和挙動



取扱い店